

時事問題を教材化した授業づくり

—教科教育法（社会）での試み—

本間 利夫

はじめに

私は2007年度から教科教育法社会や公民を担当してきたが、毎時間、時事問題についての発表を学生にさせてきた。そのねらうところは、社会科や公民科の教員になろうと志す者、現実に行っている時事的な社会事象に興味・関心を持ち、自分の考えをきちんと述べられることは欠かせない資質であると考え、少しでもそのきっかけになればとの思いに立つものであった。

2012年度はその発表を一步進め、中学校社会科公民的分野の授業を行うにおいて、発表した内容を教材化していくことを課す試みを行ってみた。まだ実践途上であるが、受講学生が、例年に比し時事問題への興味・関心が高くなったのはもとより、学習指導案づくりや模擬授業において創意工夫がみられる実感があるので、学生の実践を中心に紹介してみることとした。

I 時事問題と教材化の意義

1 学習指導要領と時事問題

中学校学習指導要領社会科公民的分野の目標は4項目から成り立っている。時事問題を扱う意義はそのすべてに関わってくる。その中でも特に（2）民主主義の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり・・・（中略）・・・社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。

（4）現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し・・・（以下略）はまさに時事的な諸問題を扱う意義を表しているといえる。¹⁾

2 「意欲的な学び」と教材

私も関与した横浜市立中学校教育研究会社会部会が2005年度の全国大会で「意欲的な学びの追究」を発表している。その中で「意欲的な学び」を促す教材の要素として、ア、子どもが身近に感じるもの イ、解いていくプロセスが味わえるもの ウ、子どもの作品などが取り入れられているもの をあげている。時事問題を扱うこととの関連でいえばとくにアの要素が関連してくる。

子どもが「身近に感じるもの」をもう少し詳しくいえば「身近で起きていること」「話題性があること」「同世代の話」などがあげられるが、時事問題はそれに結びつく場合が多い。もちろん扱いに工夫をすれば、上記のイやウの要素も満たすものとなる。²⁾

3 大学生、中学生の実態

それでは授業を行う大学生と、授業の対象者である中学生の時事的な社会事象を捉える実態はどのようなだろうか。簡単なアンケートを実施してみた（大学生7月中学生12月実施）。

大学生（神大社会科教員志望者3年生24人）
中学生（横浜市立A中3年生36人）

結果の数字は大学生, () 内が中学生

- 1 時事的な二ニュースをどのくらいチェックしていますか
 - ① 毎日 7人 (15人)
 - ② 週3, 4回 13人 (12人)
 - ③ 週1回 3人 (4人)
 - ④ なし 1人 (5人)
- 2 時事的な二ニュースを一番得ている情報手段は何ですか
 - ① 新聞 2人 (1人)
 - ② テレビ 11人 (35人)
 - ③ インターネット 10人 (0人)
 - ④ 雑誌 0人 (0人)
 - ⑤ その他 スマホ1人 (0人)
- 3 新聞をとっていますか (家で)
 - ① いる 15人 (22人)
 - ② いない 9人 (14人)
- 4 テレビニュースをどれくらい見ますか
 - ① 毎日 7人 (20人)
 - ② 週3, 4回 11人 (12人)
 - ③ 週1回 2人 (1人)
 - ④ 見ない 4人 (3人)

ここでは紙面の関係上詳しい分析には入らないが、今の一般的な大学生、中学生の状況を表した資料になっていると考えられる。時事問題を教材化するにあたってはこの状況を踏まえた上で実践に入る必要がある。

II 教材化の手順

以下のア→イ→ウ→エ→オの手順を踏んだ。即ち、取り上げる→試す→作成する→応用する→実践と検証 の順である。

ア 時事問題の発表 (取り上げる)

① 発表方法

一人15分以内 毎回授業の最初

② テーマ

一か月以内の公民的内容の時事問題から

③ 発表内容

・テーマ設定理由・説明分析・考察

・授業のどんな場面でどのように使うか

④ 配布資料

・A4, 2枚以内

⑤ 発表後

・評価票記入・質疑応答・講師の批評

イ 時事問題の教材とそれに適した指導方法を組み合わせたミニ模擬授業 (試す)

・一人8分 ・評価票記入

ウ 学習指導案づくり (作成する)

留意事項

・時事問題教材を入れたものを作成する

・その時事問題教材が指導要領のどの単元で使えるか吟味する

・必要あらば追加教材を考える

・この教材にあわせた効果的指導方法を考える

エ 夏季休暇中に二本目の学習指導案を作成する (応用する)

これについては、あえて時事問題の教材化のしぼりは入れず、これまでの学生の学びがどのように生かされるかをみた。

オ 後期に模擬授業をする (実践と検証)

作成した学習指導案二本のうち、どちらかで行う。

・受講人数に応じ一人30分ないし50分

・授業後全員で授業検証

III 学生の実践内容

1 時事問題と教材化の実践例 (概説)

以下、学習指導要領の大項目を

(1) 私たちと現代社会=社会

(2) 私たちと経済=経済

(3) 私たちと政治=政治

(4) 私たちと国際社会の諸課題=国際と表す。

Aさん

時事問題・「英国調査 子どもの水消費差50倍」5月13日神奈川

教材化単元・・・国際 「南北問題と環境問題」

新聞資料を読み、気づいたことや感想を出させ、先進国と発展途上国の水消費量の差や背景に大きな南北格差や偏った資源消費が招く環境問題の存在を理解させる。→白地図への書き込みなどで先進国、発展途上国、南北問題の確認→水問題を取り上げて、先進国、発展途上国にグループ分けし、主張と解決法を考える。→各グループの発表を聞き自分の意見を書く。→教科書を読み「南北問題と環境問題」についてまとめる。

Bさん

時事問題・・・「原発決別か依存か」5月6日朝日
教材化単元・・・国際 「資源・エネルギー問題」

2010年の日本の発電方法の割合グラフを見せる。→新聞その他の資料を配布し、原発の是非についてどんな意見があるか整理した後、グループで是非について話し合う。→2030年の自分が望む発電方法割合予想を、各自理由をつけて書く→考えるにあたり、もっと必要だと考える資料を発表し、次の調べ学習につなげる。

Cさん

時事問題・・・「蜂の巣論争 負担は誰が」
7月4日朝日 「すぐやる課」松戸市HP
「千葉市の財政概要」千葉市市勢要覧
教材化単元・・・政治 「地方自治と税金」

「蜂の巣論争」を読み、蜂の巣を誰が処理すべきか話し合う。→「すぐやる課」と、「千葉市の財政概要」の紹介→「蜂の巣論争」の解決方法を考える中で行政がすべきこと、税金の使い道、地方財政についてなど意見交換を通して理解を深めていく。

Dさん

時事問題・・・「さよなら原発10万人集会」
7月17日東京他主要紙
教材化単元・・・社会 「情報化社会」

現代社会の特色の一つ情報化を生徒たちの日常生活体験の中から発表し、社会の変化や発達を実感させる。→東京新聞他主要各紙の原発10万人集会の記事を提示、その扱いの差で気がつくことを発表させる。→メディアリテラシーなど情報化社会で生きる私たちの課題と、考えなければならぬことを、みんなで出し合う。

Eさん

時事問題・・・「The Economist」

表紙の尖閣列島の写真9月22日

教材化単元・・・国際 「国際社会における国家」

尖閣列島の写真を提示。どこだろうか予想させる。→尖閣列島の位置を地図で確認させる。→表題の「Could China and Japan really go to war over these?」をみんなで訳す→尖閣で今なにが問題になっているか、この資料や生徒の発言から確認する。→主権国家、領域の学習をする。→班ごとに解決法がないか話し合った後、今後とも自分たちの問題として平和的な解決に努力していかなければならぬことを確認する。

Fさん

時事問題・・・「総務省発表人口推計。人口
26万人減」4月18日 東京

教材化単元・・・社会 「少子高齢化」

高齢者の割合が高い都道府県ランキングを模造紙で提示、何のランキングか理由をあげて推測させる。→新聞記事と、「出生数、出生率の推移」「年齢別人口構成と変化」のグラフを読み取り、少子高齢化社会の現状を知る。→グループで少子高齢化社会の課題と解決策を考え発表しあう。

Gさん

時事問題・・・「東京スカイツリー開業」5月

22日以降のインターネット
記事
教材化単元・政治「地方自治と地域の活性化」
東京スカイツリーに関わる話題を自由に出
させる。→インターネット資料を参考に開業
以来、周辺の地域がどのように変化したか、良

かった点、悪かった点に分けてあげさせる。→
自分たちにとって活気ある住みやすい地域の要
素を書き出させる。→具体的な学校の近くの町
を取り上げ、より住みやすく活気あるものにす
るプランをグループで話し合いポスターセッ
ションを行う。

2 学習指導案例

注 指導案中*印は私の指導で一部書き換えた部分

社会科（公民的分野）学習指導案例 1

指導教諭名 ○ ○ 印

教育実習生 H 印

- 1 実施年月日時限・場所：○○市立○○学校 3年○組
- 2 担当学年組：○年 ○組 ○名（男子○名 女子○名）
- 3 小 単 元 名： 働くことの意義と働く人の権利を考えよう
- 4 単元のねらい：*

三年生の進路選択と結び付けながら、生徒たちにとって近い将来の『働く』ということを考えることにより、生徒一人ひとりが『働く』ことに対しての価値観を前向きに考えられるようにしたい。また、働く人の権利や、労働三法を理解し、労働環境の現状や課題を考える。働きやすい職場を築くためにどうすべきか将来にわたり考えていける態度を育てたい。

5 教材観

身近な事例を扱いながらできるだけ生徒にとって理解がしやすく、グループでの話し合いを通して生徒一人ひとりが考えていけるようにするため この単元では教科書に頼るのではなく教材は時事問題などを積極的に扱う。

6 単元計画 *

- (1)『働く』って？……個人ワーク、グループワークを通して『働く』とは何かを考える
- (2)『働く』人の権利…実際のできごとを取りあげ、労働者の権利や守る法を理解する
(本時)〈時事問題教材〉
- (3)『働きやすい』職場づくり…日本の労働や雇用の特色、課題を理解し、どうすべきか考える

7 本時のねらい

過酷な労働環境の話を題材にして、どうすれば解決できるか考えさせる。それを通して、労働三権に基づく、労働三法の内容を理解させる。とくに「労働基準法」にふれたい。個人ワーク、グループワークで考えることで、より深く理解できると考えられる。

8 評価

- | | |
|--------------------------|------------|
| ・積極的に話し合いに参加していたか | 〈関心・意欲・態度〉 |
| ・ワークシートにきちんと自分の感想が書けているか | 〈思考・判断・表現〉 |
| ・労働三権や労働三法を理解できたか | 〈知識・理解〉 |

9 本時の学習展開

本時の学習展開			
段階	時間	学習内容○・学習活動●	指導上の留意点
導入	5 分	○前回の授業内容を振り返る。 ●働くことについてそれぞれの考えを思い返す。	・前回の授業の振り返りプリントの配布（添付は省略）。 ・参考図書として新 13 歳のハローワークの紹介をする。
展開	25 分	○劣悪な労働環境があることを理解する。 ●資料を読み、ワークシートに感想を書く。 ●近くのひとと意見を交換する A.こんな労働環境はひどい A.こんなところで働きたくない ☆どうしてこのようなことがおこるのだろう？＊ A 経営者が儲けたいから A 競争があるから A 給料をもらうため ☆このようなことをなくすのはどうしたらいいか？ ●グループワークで過酷な労働環境をなくす方法を考え、発表する。 A.法律で規制する A.そういう場所では働かない A.訴える	・資料（時事問題教材）・ワークシート（添付は省略）の配布 ・資料は重要箇所に印をつけておくが、それ以外にも必要だと思う部分は読むこと。 ・ワークシートの記入は 3 分間 ・発問は先の話し合いをもとにしながら適した言葉に変えること。 ・グループでの話し合いを 5 分間。机間巡視を行う。 ・発表は各班の意見を板書に書いていくこと。 ・机をもとに戻さずに、出た意見のまとめをし、似ている意見や労働三法に近い意見などには印をつけていく。
	15 分	○労働三権、労働三法を理解する。 ●使用者に対する労働者の弱い立場を守るため労働三権があることを理解する。 ●教科書で具体的に労働者を守る法律があることと内容を理解する。	・板書の際には生徒があげた意見をまとめながら進めること。労働三権については既習の社会権を思い出させる。三法の内容は教科書使用
整理	5 分	○今日の話し合いや講義の内容を確認する。	・前半の話し合いと後半の講義をつなげ、働く人を守るものがあることを説明する。将来働く時に活かすことを確認する。

重責・待遇 嘆く運転手

関越道バス事故 同じルートを記者が走行

徹夜500キロ 不安も同乗



続々と集まるツアーバス11台午後10時33分、金沢市のJR金沢駅西口

1日午後10時。金沢市のJR金沢駅西口には東京行きのツアーバスが10台近く並んでいた。多くは運転手が2人だ。

「俺たちは2時間交代で休めるからいい。事故を起こした運転手は、ワンマンじゃつらかったろう」。こま塩頭の運転手(49)が乗客の手荷物をトラックに詰め込みながら言った。「寝られるときに寝ておかないとおしまいだよ」

水道工から転職したのは2年前。月30万円だった手取りが不況で10万円近く減ったためだ。今は金沢―東京を夜行バスで月に11往復して22万円。妻と2人の子供を養っているという。

午後10時40分。レンタカーで出発。目的地は東京ディズニーランド。カーナビの到着予定は午前5時43分だ。撮影役の同僚を乗せ、1人で運転する。

午後11時50分。北陸道を新潟方面へ約80キロ走り、富山県魚津市の有機海サービスエリア(SA)に入った。売店では運転手たちがガムやドリンク剤に手を伸ばしていた。レストランでは十数人の運転手がカレーやラーメンをかき込み、5分ほどでバスに戻っていく。店員の男性(31)は「皆さん注文は同じ。休憩が短いから、すぐ食べられるものを選びます」。駐車場のバスに1人残っていた50代の運転手は「食事は運転を交代する前だけ。眠くなるから」。運転手たちが「つらい」と口をそろえたのが車内の静けさ。窓は開けられず、ラジオも聞けない。乗客の安眠のため。それが運転手にとっては苦痛だ。

関越道に入り、全長11キロの関越トンネルを抜けた。群馬県側に出ると強い雨に見舞われた。

2日午前4時15分。空が白み始めた。開けた視界に

平坦でまっすぐな道が続く。カフェイン入りのドリンク剤2本を飲んだせいかわ、胃もムカムカする。あくびを数えるのは20回を超えたところであきらめた。沿道に住宅が増え、事故の起きた藤岡ジャンクション(JCT)にさしかかる。緩い左カーブ。壊れた防音壁が見えた。7人の命が失われた場所だ。金沢駅前で見かけた若者たちの姿が目につく。

15年勤めた運送会社が倒産し、転職したという。「バスは気が重いよ。トラックなら荷物を壊しても、まだお金で済むから」。午前7時28分。ディズニーランド到着。8時間48分、走行距離532キロ。駐車場には各地からのツアーバスが次々に入ってくる。はしゃぐカップル、親子連れ。目はかすみ、腰が痛む。ハンドルを握り続けた両手はしびれたような感覚が残ったままだった。



時(分)	場所
22:40	金沢駅
23:50	有機海SA
1:55	上越JCT
4:15	空が明るくなる
4:47	藤岡JCT(事故現場)
4:54	本庄児玉IC
5:20	高坂SA
7:28	東京ディズニーランド

社会科学習指導案例 2

指導者氏名 ○ ○ 印

授業者氏名 I 印

- 1、日時 2012 年 9 月 6 日（木） 第 4 時限
 2、指導学級 第 3 学年 5 組（男子 21 名 女子 13 名 計 34 名）
 3、単元名

第 3 章 私たちの生活と政治―民主政治と政治参加―

第 2 節 国民の代表機関としての国会

4、教材観 *

夏休みの間に日本の政治では様々な動きがあった。その動きを把握するとともに、現在、国会運営で問題となっている民主党のマニフェストとは違う政策を提案していることなどから、国民が合意したこととの矛盾をとらえる力を養う。しかし、政党は議会制民主主義の運営上欠くことのできないものであることも理解した上で現実の政治の動きをとらえることは、生徒達が将来選挙権を持った時に政治参加への意識を強く持つことにつながる。そのため、この単元を時事問題を通して学ぶ意義は大きいと思われる。

5、（単元の）指導計画＜3 時間＞

- 1)三権分立と国会のしくみ・・・国会・内閣・裁判所の三つの機関がどのように関連しあっているのかをグループワーク等を通して考える。
- 2)立法権をもつ国会・・・・・・国会はどのような仕事をしているのかを新聞記事などから考え、発表する。
また、国会のしくみについても理解する。
- 3) 政党と政治・・・・・・政党は国民の声を政治に反映させるためにどのような役割を果たすべきかを時事問題から考える。＜本時＞

6、本時のねらい

本時は、まず授業の冒頭で、夏休み中に東京新聞で掲載された国会運営や政党に関する風刺画や風刺漫画を順番に並べることで、この間に起きた日本の政治の流れを確認させる。そのうえで、実際に風刺画、風刺漫画の内容について考え、現在の日本の政党が抱える問題や、本来あるべき政党の姿との矛盾点を考えさせる。そして、自分たちが選挙権を持つようになり、政治参加をするときには何を大事にして政党を見るべきかを考えさせる。また、考えるときにはグループワークなども織り交ぜて、自分の考えをほかの人に伝える力も養う。

7、本時の目標

- ・ 政党という組織と政党の役割について理解する。（知識・理解）
- ・ 与党と野党という区分について理解する。（知識・理解）
- ・ 実際のマニフェストを読み、簡単な言葉で表現する。（思考・判断・表現）
- ・ グループの話し合いに積極的に参加する。（関心・意欲・態度）

8、本時の展開

過程	学習内容（○）・学習活動（●）	指導上の留意点
導入 (5分)	○夏休み中に起きた政治の流れを確認する。＊ ●東京新聞の風刺画と風刺漫画がランダムに並んだものを見て、どんなできごとや内容を表しているのか発表しあう。 ●そのできごとが起こった順に並び替えてみる。	◇資料を配布する。 ◇ヒントとしてその日にあった他の記事も紹介する。

	<p>●代表者一人が黒板で並び替えてみんなで答え合わせをする。</p> <p>●どのできごとにも政党の存在があることを理解する。</p>	<p>◇代表者はこちらで指名する。</p>
展 開 (35) 分	<p>○政党の働きについて知る。</p> <p>●政党という言葉に対するイメージを浮かべる。</p> <p>●政党とは何かと働きについての板書をノートに書く。</p> <p>●風刺画・風刺漫画から現在の政党と政治での問題点・矛盾点を指摘する。</p> <p>○与党と野党について知る。</p> <p>●「与党」と「野党」という言葉のイメージから、与党と野党が何かを考える。</p> <p>●与党と野党の役割についてまとめられた板書をノートに写す。</p> <p>○マニフェストを読み、理解を深める。＊</p> <p>●マニフェストの説明を聞く。その後グループを作り、各グループで民主党のマニフェストを読む。</p> <p>●グループごとにマニフェストの分野を決め（例えば、子育て・教育分野など）、そこに書かれているものを簡単に書き直してわかりやすくする。</p> <p>●わかりやすくしたものを他のグループに発表する。</p> <p>●実際の実施状況について考えてみる。</p>	<p>◇何人かの生徒を指名し、政党という言葉に対するイメージを聞く。</p> <p>◇板書は時間を短縮するために、あらかじめ模造紙で書いたものを用意しておく。</p> <p>◇こちらの発言では、生徒の積極的な発言を尊重する。</p> <p>◇こちらの板書も模造紙で用意したものを用意する。生徒がノートに写す時間を十分確保する。</p> <p>◇グループはこちらで指示する。</p> <p>◇グループに民主党の2010年度に出されたマニフェストの一部分を配布（添付は省略）する。</p> <p>◇わからない言葉などは挙手で発言させるようにし、みんなで共有できるようにする。</p> <p>◇時間が足りない場合は、次の授業でまとめたものを配布して、みんなで共有する。</p>
まとめ (10) 分	<p>○これから、ニュースなどで政治の動きを見ていくポイントを考える。</p> <p>●日本には、現在どのぐらいの数の政党があるのかを移り変わりとともに知る。</p>	<p>◇日本の政党の主な移り変わりを、わかりやすく表でまとめたもの（添付は省略）を用意する。</p> <p>◇授業の復習にあたるキーワードなどは生徒に発問する。</p>

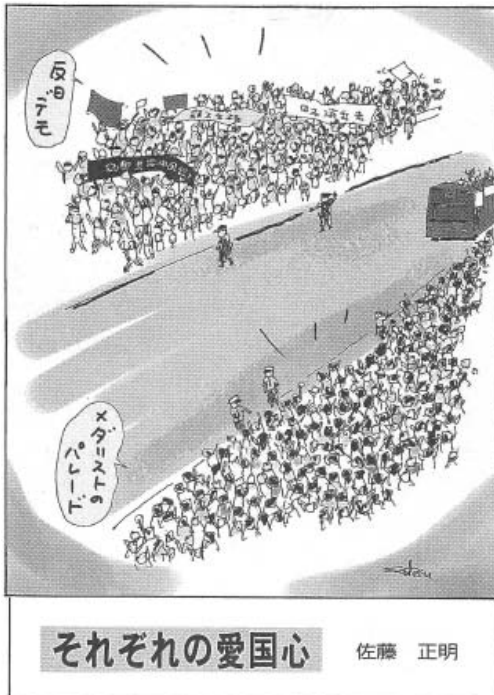
9、評価

- ・政党という組織と政党の働きについて理解できたか。(知識・理解)
- ・与党と野党の区分について理解できたか。(知識・理解)
- ・実際のマニフェストを読み、簡単な言葉で表現することができたか。(思考・判断・表現)
- ・夏休み中の政治的な動きをとらえていたか(関心・意欲・態度)
- ・グループの話し合いに積極的に参加できたか。(関心・意欲・態度)

10、板書計画

省略

①



②



③



④



東京新聞より

IV まとめ

1 実践後の学生の主な感想

- ・テレビや新聞のニュースに関心が高まり、授業での教材化を考えるようになった。
- ・時事的なニュースのほとんどが公民的分野の授業とつなげられると感じた。
- ・時事的な問題の内容を自分がよく理解しなければ、教えることは難しいと感じた。
- ・リアルタイムな問題は生徒も興味・関心を示すであろうと確信した。
- ・幅広く情報を捉え、多面的・多角的な視点で考え、自分なりの意見を持つことの大切さを感じた。
- ・たくさんの情報や意見の中で生徒に何を伝えるべきか難しさを感じた。
- ・忙しさの中で、毎日、新聞をチェックするようになったことが最大の収穫だった。
- ・社会が刻々と変化する中で、諸問題に対して敏感に考えていく必要と難しさを感じた。
- ・インターネットからだけでなく、他のメディアからも情報を得るべきだと感じた。
- ・社会科の授業は世の中の動きに直結していることを改めて思った。
- ・すべてのニュースが中学生向きに書かれているわけではなく、難しくても伝えたいことを上手に伝える方法を考えねばならない。
- ・新聞記事も教材化の視点から見ると主観的な意見が入っているものもあり、教育効果を上げるには工夫も必要と気づいた。
- ・生徒にとって身近で、わかりやすく、伝わりやすい記事とは何だろうといつも考えていた。
- ・多くの資料の中で、記事の信ぴょう性、分かりやすさなど情報選択の力が試される。
- ・これまで自分が時事問題に興味・関心を持っていなかったことを痛感した。
- ・時事的な問題は常に変化していくので、毎日のチェックが大事だと感じた。

2 見えてきた成果と課題

① 成果

- ・時事問題に関する関心が高まった。
先に示したアンケート結果は発表途中のものであり、その後の学生の変化を読み取れるものではない。しかし、事後の感想や授業時の話題に、不十分ではあるが確実に関心の高まりを感じることができるようになった。
- ・教材化の楽しさを体得しつつある。

日常的に教材化の視点を持って時事的な社会事象を捉え、その楽しさを感じられる学生が増えている。先の教材化例のA、C、D、Eさんや、指導案例1 Hさんの資料は1級資料と評価できる。また、指導案例2のIさんは夏季休暇中継続して教材化を追いかけたことがうかがえる。しほりをかけなかった二本目の指導案について、多くの学生が時事的な問題を教材化したことにも表れている。

② 課題

- ・教材内容の吟味、選択の重要性の認識

この単元で自分は何を教えたいのか、そして、生徒たち自身が「もっと学びたい」「追究したい」と考えるのに適した教材なのかという視点が今一步である。高みを望むなら、単元を貫き、社会的事象の本質が浮き彫りになるような教材なのか吟味する視点が欲しい。刻々と変化する教材の難しさはあるが。

- ・教材化の工夫

時事問題を教材化するとき、中学生にそのまま与えると難しいことが多い。中学生の実態にあわせ、加工したり、いくつかの情報を組み合わせたり、視聴覚機材を活用するなど、多面的・多角的な考察ができ、わかる授業に結びつく創意工夫がもっと必要である。

- ・教材を生かす方法、評価の組み合わせ

今回、せっかくの時事問題教材が指導法の未熟さで生かし切れなかった例があった。当たり前であるが、その教材を最も効果的に生かす指導法や評価法を組み合わせることで初めてよりよい授業づくりとなる。

3 今後の展望

学生についていえば、時事問題を題材にした教材づくりの一方法の経験が、4年次の教育実習や教員採用試験時、あるいはその先に役立つことを期待したい。この手法を応用、発展させることで、少なくとも教材といえば教科書しか浮かばない授業からの脱却に役立つことを期待する。

私については、限られた時間のなかで、見えてきた課題をどのように学生に伝えていくかも含め、より有効な実践を今後も追究していきたい。

注

- 1) 中学校学習指導要領解説 社会編
平成20年 文部科学省
日本文教出版
- 2) 全国中学校社会科教育研究大会
横浜大会紀要 平成17年度
横浜大会の大会主題は「意欲的な学びの追究」であり、材・方法・評価の視点からの研究であった。